

令和3年度 第1回長野市総合教育会議（拡大版） 議事録（要旨）

1 日 時 令和3年7月7日（水） 午後3時30分～午後5時

2 会 場 長野市役所第一庁舎7階 第1・2委員会室

3 次 第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 協議事項

① 第三次長野市教育振興基本計画の策定について

② GIGA スクール構想による学びの充実について

(4) 報告事項

① 子どもの貧困対策計画について

② 第三期しなのきプランについて

(5) 閉会

4 出席者

○加藤久雄市長

○長野市教育委員会

丸山陽一教育長、近藤守教育長職務代理者、倉石和明委員、塚田まゆり委員、
茅野理恵委員

○有識者

加藤二佐雄 元日本PTA全国協議会副会長、鷲澤幸一 長野商工会議所教育問題特
別委員長、中島明彦 長野市PTA連合会顧問、関奈美 長野市PTA連合会参与

○オブザーバー

樋口博副市長

○職員

西澤企画政策部長、樋口教育次長、勝野教育次長、中澤保健福祉部長、日台
こども未来部長、小林文化スポーツ振興部長、島田秘書課長、上石参事兼学校教
育課長ほか関係する市長部局及び教育委員会事務局の職員

5 会議要旨

(1) 開会 進行：西澤企画政策部長

(2) あいさつ

加藤市長：

- ・ 拡大版総合教育会議にご出席いただきお礼申し上げます。
- ・ 教育委員会では、今年度から、行政職の丸山氏を迎え、近藤氏には教育委員会の委員として就任いただくことにより、新たな体制となった。この新体制の下、様々な課題の解決を図りながら、本市教育を更に発展させていく。
- ・ 協議事項の1点目として、「第三次長野市教育振興基本計画」の策定について御協議いただくが、本市においては、その「基本計画」を大綱に代えると考えている。
- ・ 2点目として、GIGA スクール構想による学びの充実についてだが、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、子ども達は、様々な制約のため心身ともに大変な負担が生じている。特に、小学校低学年の子供たちは、マスク着用のために、大人や友達の喜怒哀楽の様々な表情を見て成長する重要過程を失い、今後の心身の健やかな成長に大きな支障があるのではないかと心配している。
- ・ 国の GIGA スクール構想による学びの充実のために、一人一台端末の配備完了を目前に控え、教員のパソコンへの習熟度の向上、支援員の強化、家庭での Wi-Fi 環境の整備等多くの課題を抱えてのスタートで、それが引いては教員間格差、学校間格差などに繋がらない様対応が迫られている。
- ・ 子ども達にとって望ましい教育の在り方について、また市としての支援のあり方等について協議いただきたい。
- ・ 報告事項は、「第三期しなのきプラン」。本プランには、新たな事業を位置付け、小学生期の運動機会の維持、中学生期の運動機会の確保を目指す。
- ・ 近年、様々な特性のある児童生徒が増加しており、本プランにおいても、引き続き、「特別支援教育 支援員」を増員するなど、一人一人の教育的ニーズに応じた支援体制づくりを進める。
- ・ 「子どもの貧困対策」が緊急を要する課題となっており、全ての子どもたちが前向きな気持ちで夢や希望を持つことができる環境を整えるため、市では「子どもの貧困対策計画」を策定する。
- ・ 本日は、皆様から忌憚のない意見を頂戴したい。

丸山教育長：

- ・ 本日は、「拡大版 総合教育会議」を開催いただき、感謝申し上げます。
- ・ 市長には、日頃から長野市の教育の充実、発展にご理解をいただいている。また、お越しいただいた皆様には日頃から長野市の教育の充実発展のために、ご理解ご支援を賜り、重ねて御礼を申し上げます。
- ・ 昨年度から続くコロナ禍で、小中学校では、感染防止対策、心のケア、学びの保障などに力を入れるとともに、運動会や文化祭などの学校行事を、先生や児童生徒が工夫を凝らして実施するなど、明るく元気に学校生活を過ごせるように取り組んで

おり、市教育委員会としても支援をしている。

- ・ワクチン接種が進み明るい兆しが見え始めたが、今後も引き続き、感染予防対策には万全を期して参りたい。
- ・本日の会議では、第三次長野市教育振興基本計画を策定するに当たり、新たな時代を見据え、今後の長野市の教育の充実発展のために、この計画が、教育の大綱となるように、それぞれの立場からご意見を頂戴したい。
- ・第三期しなのきプランでは、一人一人の子供たちが、自らその学びを進めることができる自学自習の力を育むことに重点を置いている。
- ・GIGA スクール構想による学びの充実については、1人1台のタブレット端末の活用について、また今後どのような支援を行っていく必要があるか、皆様と考え方を共有して参りたい。
- ・本日は、忌憚のない活発な意見交換の場となるようお願いする。

(3) 協議事項

①「第三次長野市教育振興基本計画の策定について」

- ・樋口教育次長から、資料1に基づき説明

説明内容

- 1 教育振興基本計画の位置付け
- 2 計画の策定体制
- 3 第三次教育振興基本計画策定スケジュール
- 4 教育に関する「大綱」について
- 5 第三次長野市教育振興基本計画策定の主旨
 - (1) 計画の位置づけ
 - (2) 計画の期間
 - (3) 長野市教育の基本理念
 - (4) 計画策定に向けた主な視点
 - (5) 第三次長野市教育振興基本計画施策体系(素案)

【意見交換】

(有識者) 今一番大きな教育課題は、少子化だと思う。人口減少社会に応じた活力ある学校づくりの推進とある。学校の統廃合は、最後の手段かもしれないが 道筋はしっかり作っておいたほうがよいと思う。

また、どんどん小規模化している学校の中で、どういう学びをしていくのかという姿勢も、具体的に示していったほうがよいと思う。

それから、「家庭の教育力の向上」について、学校で働き方改革を行っているが、なぜ教員が学校に残っているのかというと、ほとんどの原因が家庭への支

援等の内容であると聞く。ご家庭での教育ができない。そういうご家庭への支援が大切で、こういうご家庭があるということを、もう少し認識しながら進めていただければありがたい。

あと、インクルーシブに関しては、発達障害や、特別支援学級にいかなくてもいいようなお子さんとは、ちゃんと通常学級でのインクルーシブを行い、発展しながらやっていく姿勢も必要だと思う。

(有識者) 今、先生の働き方改革という話があったが、企業から見ても、今働き方改革が大変大きなテーマとしてある。家庭の中で大人がもっと教育に関わらなければいけないということは大事だと思う。

色々なことを協働していくというときに、教育の立場から、企業や社会の役割について打ち出していただけると、企業としては取り組みやすいと思う。

また、顕在化してきている課題で、SNSの問題があるが、子どもたち、特に中学生が一番時間を費やしているのは、スマホだと思う。これは、教育の観点からうまくすれば、武器になるかもしれないが、弊害でいろいろな問題が出てくることは言うまでもない。スマホがあり、それが浸透している以上は、無視をするのではなく、前向きにどう使っていくのかという教育も一つの大きなテーマではないかと思う。

(有識者) 「教育を取り巻く社会背景」に「持続可能な社会、SDGsの実現」とあるが、子どもたちは今学校等とかでいろいろ話を聞いていて、SDGsについてよく理解しているが、保護者の方が実はよく知らない。保護者も子どもと一緒に取り組めるようPTAのホームページからSDGsについて保護者向けに配信することとした。

(委員) 様々なお母さんたちから話を聞くと、タブレットの導入について、Wi-Fi環境が整っているお宅は、「いつ持って帰ってきててもよい、早く持って帰ってきて、タブレットを使って一緒に勉強したい」という意見と、「自分も使えないので、持って帰ってこられても困る。そのためにWi-Fiも、繋がなければならないのは金銭的に困る」という意見があった。スマホやタブレットと接する機会がない子にとっては、他の子たちより遅れるのではないかという心配もある。クラスの中で、できない子がいじめの対象になるのではないかという心配もあるということを聞いているので、そのケアも一緒にできるような内容にしていきたい。

(委員) 少子化という大きな問題が背景にあるが、総合教育会議で市長と話をする中でも、学校については、「教員の資質向上」が大事だということで、教育振興基本計画の最初に、「教員の資質向上」を挙げている。

「顕在化している課題」についても、学校における問題というよりも、むしろ、学校に来て様々な問題が顕在化してくる。その原因に思いを起こして寄り

添っていく中で、今、学校だけで問題を解決していくことができる時代ではなくなってきている。それで、前は連携だったが、お互いにできることをみんなですべてやっという意味で協働という、今度のキーワードが出てきている。現在の様々な課題を踏まえながら、今度の第三次の教育振興基本計画の体系ができていていると思っている。

(委員) 今、皆様からもあったように、基本計画なので、どうしても総花的な話になるが5年間の中で、重点施策的なものが基本の上に必要。少子化と人口減少に関することに対しての、学校教育のあり方については、長野市の一番大事な重要施策として取り上げるべきだと思う。それと貧困化によつての教育格差という問題も同様である。

長野市としての今後の道筋をきちんと立て、できることを、これからの5年間の中でしっかりとやるべきである。

(委員) 私も貧困による格差というのは、この頃常に感じるところがあり、顕在化している課題に入れて考えなければいけないと思っている。

学校の概念は、ただ学校の先生と子どもたちがいるのではなく、外から講師がどんどん入ってきて、いつもフレッシュな開かれた学校というのが新しいモデルでよいと思う。知識を持っている方で、地域にいらっしゃる方もいるので、そういう方に出てきていただく仕組みを作ることが高齢者活躍支援の場にもなるので、開かれた学校というのをもっと押し出していければよいと思う。

(委員) 基本計画で、一つ大事にしたいと思う視点の話をする。

今まで、多様性を理解するということ、個に焦点を当てるということを行ってきた。今年の冬の中教審の答申にもあるようにここでまた、協働的という言葉が出てきている。これまで個に注目してきたところに、改めて、ある意味また集団を捉えていくことになってくる。

協働もいろいろあると思うが、その協働によって、一体何を育もうとしているのか、何をつくり出そうとしているのかということ、この基本計画の段階でもイメージしながら作っていくことが大事になってくると思っている。一番は目指す姿を常に想像しながら、この基本施策をこの先深めていきたいと思う。

(教育次長)

今後策定委員会では、部会に分かれて、各々の協議内容の検討に入っていく。今いただきましたご意見については、策定委員会の方でもお伝えし、それを踏まえた議論になるようにしていきたい。

②GIGA スクール構想による学びの充実について

・勝野教育次長から、資料2に基づき説明

説明内容

しなのき GIGA プロジェクト (R03-R05)

【意見交換】

(有識者) 個人へのタブレット、学校へのタブレットについて、児童生徒には、今
どういう状況で貸与されていて、いつまでに全員貸与するのか。

(教育次長) 小・中学校へは、8月末までに1人1台の配備が完了する。

現時点では、上の学年から中学校では3年生から2年生、小学校では、6
年生から4年生あたりまで配備が進んでいる。

(有識者) タブレット自体へのフィルタリング・規制はどういう状況か。

(教育次長) 端末そのものにフィルタリングがかかっている。また、学校で使う場
合はデータセンターにアクセスすることになるが、そのデータセンターで適
切にフィルターをかけている。

(有識者) それを家庭に持って帰った時に、家庭でも有害なサイトにアクセスでき
ないという、認識でいいか。

(教育委員会事務局) フィルタリングに関しては、小学校に配備している i P a d
は、標準のフィルタリングに加え、特定のアドレスを指定してアクセス制限
をかけている。これは家庭でも機能する。

中学校は chromebook という端末を導入しているが、家庭でも機能するフィ
ルタリングソフトを導入している。

(有識者) 意見として、GIGA スクール構想による学びの充実のためには教職員の資
質向上しかありえないが、今後の課題のところに「教職員の負担軽減」とあ
るが、専門職なのだから、尽力いただきたいと思う。ただ、やり方は工夫し
ていただいて、先生方が楽しく使えるように、やっていくとよい。

もう一点、個別最適学習を推進するためには、家庭学習で活用しなくては
まずいのではないか。モデル校で試行しながら慎重に進めるという表現だ
が、これはスピード感を持った方がいいと思っている。

これについては、意見の違う人も多いかもしれない。

(有識者) 「ミライシード」というソフトは、オンラインでなくとも使えるものな
のか。

(教育委員会事務局) 「ミライシード」は、基本的にはオンラインでの使用であ
る。データ保存して持ち帰ることはできない。

インターネットへ接続する回線が細いため、データセンターにサーバーを構
築して、学校からサーバーにアクセスしているため、家庭からは現在アクセ
スできない設定になっている。

(有識者) 家庭に持ち帰り、家庭に通信環境があったとしても、ミライシードには
繋がらないということか。

(教育委員会事務局) 今はそのようになっている。

(有識者) 今後、変えていくのか。

(教育委員会事務局) インターネット回線の強靱化を図ったところで、クラウドの方にサーバーを移す。令和5年度を予定しており、そこからは家庭での利用も想定している。

(有識者) すべてがオンラインにできるわけではない。オンラインでないところでも、タブレットを使って勉強ができる環境やソフトがあるべきだと思う。オンラインでないで使用できないことは、制限が強すぎる気がする。

それと全く逆で、家庭の通信環境の記載があるが、在宅勤務の企業等も出てくる中で、家庭のWi-Fiの環境整備というのは、企業にとっても大きなテーマになっている。企業を巻き込んで、一緒に解決していくということをお願いしたい。

学校教育と企業が一緒になり、そういうものを発達させていくのがいい。

(委員) このGIGAスクール構想ができたときは、学校の中で完結するというものだった。

コロナの流行により、家庭へ持ち帰るという方がクローズアップされていて、子供たちに十分に指導をしてからという部分が抜けてきている。

今、家へ持ち帰り、すぐできる状態ではないということが、世間に誤解されているところがあるかなと思う。スマホと同じにはなっていない。

(有識者) 極論だが、教科書の内容を全部詰め込むだけでいいと思う。学校へはスマホ1台持っていけばよくなり、大きなカバンもいなくなる。

(委員) デジタル教科書の問題もいろいろある。本当にデジタルだけでやっていくのがいいのか。

人間形成の関係上でどうするかということを解決していく中で、個別最適化ということをねらっている以上は、1人でできるソフトの必要なものは、何とか用意していただきたいと思っている。

(有識者) GIGAスクール構想も、郡市によって違いがあるが、長野県のPTAで、教育懇談会があったので、情報を調べた。

いい点としては、型にはめられた学習の仕方ではなく、自分の興味があることをどんどん調べて研究できること。課題としては、タブレットを壊した時の対応が地域ごとに違うらしく、曖昧で不安であるということが挙がっている。

一番多い声は、まだまだ説明不足のところもあり、親がどうしていいかわからないということ。子供はすぐ順応するが、親がよく理解していかなければならないと思う。だから、タブレットの保険についてと、保護者に対してのこれからの説明であるとか、保護者の学習について、是非お聞かせ願う。

(教育次長) 保護者への説明については、端末がまだ1人1台届いてないため、夏休み明けから順次、使い方をはじめ、説明を十分にしていく予定。

保険については、今のところ教育委員会で持つ予定。ただそれも、今後の利用状況により課題の一つであるかと思う。

(委員) 長野市の教員の年齢構成は、再雇用や再任用で、50歳以上が相当数いる。ICTの活用は、大いに結構でどんどん推進いけばいいと思う。ただ、健康障害とかは加味しなければいけない。

問題は教職員にとって本当に働き方改革になるのか、負担軽減になるのか、個人的に疑問を持っている。50過ぎて50の手習いで、普通の教員が、それに対応していくことは、本当に働き方改革になるのか。余計に負担がかかるかもしれない。

これを推進していく中では、大きな長野市の課題なんじゃないかなと、自分の経験も踏まえて感じている。50過ぎてから新たにガラッとアナログからデジタルに変わるということは、精神科医としてメンタルヘルスの研修会をしていると、各企業でも、ストレスを感じて、非常に不適応が起きている方々も多いという実態もある。

今の年齢構成の中でこれを推進していくのは、かなりリスクがあるのではないかということ、個人的には感じている。

(有識者) 研修といって、「こういう場面ではこう使いましょう」とやっていくと、絶対拒否があると思う。そうではなく、「こういう使い方、こう進んでいくと面白いよ」とやっていく。そこで引き込んでいくしかないのではないかという気がする。

(委員) そう思って、いろいろとやっているところですが、なかなか難しい。

(委員) 教員がこれに慣れていくというのは、様々なリスクがあるが、今まで私がみてきた中では、思ったより皆さん、前向きに取り組む方が増えてきていると思っている。

全部完璧にこのイメージしているように使えるという方は、本当にわずかだが、やろうという気持ちを持ってきて動いてきている。

ただ、使われるのではなくて、子供にとってどういう勉強をしていくことが必要かということが大切。これは「第三期しなのきプラン」の「自学自習」の自分で学んでいこうという意欲を高めるところへどうつなげていくかということで、「昭和の授業から令和の授業へ変えようよ」と、そういう声も出てきている。

(4) 報告事項

①子どもの貧困対策計画について

- ・日台こども未来部長から、資料3に基づき説明

説明内容

- 1 子どもの貧困対策に向けた国の状況について
- 2 長野市子どもの貧困対策計画策定について
- 3 計画の骨子案
- 4 計画策定に向けたスケジュール（予定）

②第三期しなのきプランについて

- ・勝野教育から、資料4に基づき説明

説明内容

- 1 基本方針
- 2 「自学自習の資質能力」 ＝ 明日を切り拓く力
- 3 全体イメージ
- 4 重点取組
- 5 推進

【意見交換】

（有識者） コロナによって就学援助が結構増えていると思うが、数字は分かるか。

（教育委員会事務局） 令和2年度の数字で、220人近くがコロナで家庭の状況が変わったという申請をいただいた。令和元年度に比べ、減っているが、令和元年度は台風災害があつて特別多かった。平成30年度と比べると、若干増えているという状況。

（有識者） 何%ぐらいか。

（教育委員会事務局） 令和2年度で、準要保護の関係では、11%ぐらいになる。

（有識者） 国の貧困率よりは若干低いのか。

（教育委員会事務局） 全国と比べると少ないが、ただ、今の数字は生活保護関係の数字が入っていない準要保護のもの。要保護も入れた数字は、令和2年度で12.33%となる。

（有識者） 長野で育ち、長野で就職してくれるとこの少子化も少しずつ改善できるのではないかなと思うが、その中でキャリア教育の推進支援っていうのが非常に重要だと思う。具体的にもう少し取り組み内容の話をしていただきたい。

（教育次長） 学校によって様々だが、小学校1年生から地域の学習が始まる。学校の周りから始まり、段階的に県内、県外へと範囲を広げていく。小学校では、地域の学習を充実させることがキャリア教育の一つとなっている。

中学生になると、実際の職場での体験を取り入れるなど、自分の興味のあ

る職業を肌で経験するという学習が行われる。

大きくはそのような状況である。

加藤市長（まとめ）：

- ・本当に今、子供たちの教育環境、子供たちの環境が激変しているということ。
- ・今、子供の数が激減している。そして貧困の問題も含めて、格差が拡大をしている。
- ・教育は学校任せというような形になってきている。その中で、GIGA スクール、スマホ等の進展等も含めて様々な環境になってきているが、長野市が総力を挙げて、教育委員会とともに、対応していく。
- ・国はＩＣＴやＤＸを進めており、遅れてはならないという中で進めていく。今後とも教育委員会と連携し子供たちの成長のために進めていきたい。